

GA327

言語文化演習－世界遺産に学ぶ－

佐々木 直美

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんはSA中あるいは個人旅行などでこれまでにいくつかの世界遺産に触れ感動した経験があることでしょうか。しかし、多くの世界遺産は環境問題や貧困問題、宗教問題など様々な現代の問題を反映し、直接それらの影響を受けています。南米ペルーを代表する世界遺産マチュ・ピチュの劣化や中東のエルサレムに生じている危機はそれらの例です。このゼミでは、各人の関心に従って世界遺産とそれにまつわる様々な問題を掘り下げ研究します。

【到達目標】

- ①世界遺産を通じて歴史と異文化への理解を深める。
- ②世界が抱える諸問題を認識し、それについて自分の意見を述べ議論を展開させる力を付ける。
- ③資料収集、文献・資料の分析を通じて、研究発表や論文執筆を行う。

【授業の進め方と方法】

3年次では個人研究のテーマの選択と発表を行います。基礎文献の輪講、個人およびグループでの報告のほか、場合によってはフィールドワークへ出ることもあります。また、毎年秋学期に開催される国際文化情報学会への参加準備も行います。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 1	3年生に対する、昨年度何をやってきたか、の説明（4年生と教員による）。今年度のテーマについての議論。
2	イントロダクション 2	世界遺産の基礎知識を学ぶ。
3	世界遺産の現状と課題	世界遺産の現状と問題について理解を深めるため、グループに分かれて研究を行う。
4	世界遺産の現状と課題	世界遺産の現状と問題について理解を深めるため、グループに分かれて研究を行う。
5	文献講読 1	世界遺産の基礎知識と昨今指摘されている世界遺産の問題点について学ぶ。木曾功『世界遺産ビジネス』佐滝剛弘『「世界遺産」の真実』をテキストとする。
6	文献講読 2	課題図書 1の輪講
7	文献講読 3	課題図書 2の輪講
8	討論会 1	ゼミ生が決めたテーマで討論会を行う。
9	個人研究発表 1	4年生による個人研究発表を行う。
10	個人研究発表 2	4年生による個人研究発表を行う。
11	文献講読 4	課題図書 3の輪講
12	文献講読 5	課題図書 4の輪講
13	文献講読 6	課題図書 5の輪講
14	討論会 2	ゼミ生が決めたテーマで討論会を行う。
15	まとめ	春学期の間に学んできたことをまとめ、各メンバーが考えたことを持ち寄り、自由に議論する。

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期に学んだことの復習と輪講準備、学会発表についての方針と内容の策定
2	グループ・ワーク (1)	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
3	グループ・ワーク (2)	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
4	グループ・ワーク (3)	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
5	グループ・ワーク (4)	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
6	グループ・ワーク (5)	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
7	グループ・ワーク (6)	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
8	グループ・ワーク (7)	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。
9	グループ・ワーク (8)	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。 学会発表準備
10	グループ・ワーク (9)	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。 学会発表準備
11	個人研究発表 (1)	担当者が課題文献について内容を報告し、問題提起を行い、それについて全員で議論する。 学会発表準備
12	個人研究発表 (2)	個人研究の発表と議論を行う。
13	個人研究発表 (3)	個人研究の発表と議論を行う。
14	個人研究発表 (4)	個人研究の発表と議論を行う。
15	個人研究発表 (5)	個人研究の発表と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・課題テキスト、参考文献を指定された期日までに読み、疑問点や意見をまとめる。
- ・個人研究を進める。

【テキスト（教科書）】

NPO 法人世界遺産アカデミー『世界遺産検定公式ガイド 300』毎日コミュニケーションズ、2010年。
佐滝剛弘『＜世界遺産＞の真実：過剰な期待、大いなる誤解』祥伝社新書、2010年。
木曾功『世界遺産ビジネス』小学館新書、2015年。

その他必要に応じて授業内で指示します。

【参考書】

奈良大学文学部世界遺産を考える会『世界遺産学を学ぶひとのために』（世界思想社、2000年）
松浦晃一郎『世界遺産 ユネスコ事務局長は訴える』（講談社、2008年）
中村俊介著 『世界遺産が消えてゆく』（千倉社、2006年）
七海ゆみ子 『無形文化遺産とは何か』（彩流社、2012年）
国末憲人 『ユネスコ「無形文化遺産」』（平凡社、2012年）
宮本常一『イザベラ・バードの『日本奥地紀行』を読む』（平凡社、2002年）

その他必要に応じて授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション、研究報告、ゼミへの貢献度などの平常点 (50 %)、課題 (50 %) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生と相談しながらフィールド・ワークを企画し、演習内容を柔軟に対応させる。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

希望者は『世界遺産検定』（NPO 法人世界遺産アカデミー主催）の2級取得を目指すことができます。その際にはゼミの先輩たちと共に受検対策をサポートします。